と 畜場搬入牛より分離した腸管出血性大腸菌 O157 の性状

豊橋市食肉衛生検査所 〇松本 圭 今泉小百合 高木慎介 森本賢治 清水隆博 細井美博

はじめに

牛は腸管出血性大腸菌(EHEC)の保菌動物であり、EHEC による食中毒の原因食品は牛に関連する食品が多い。フードチェーンの川上であると畜場での解体時の汚染防止は重要な課題であり、当所では 2011 年 4 月より管内と畜場搬入牛の EHEC 保菌状況を調査している。今回、これまでに分離された EHEC O157 について性状を分析したので報告する。

材料及び方法

2011年4月から2013年10月に行った当所のEHEC保菌状況調査において、管内と畜場搬入牛のうち肥育牛1,156頭(78農場)中42頭(19農場)の直腸便から分離されたEHEC O157、42株を用いて以下の試験を実施した。

- 1 ベロ毒素 (VT) 産生性試験:デュオパス・ベロトキシン (Merck 社) を用いた。
- 2 薬剤感受性試験:14薬剤(ABPC、CEZ、AMPC/CVA、SM、KM、GM、TC、CP、ST、FOM、NA、OFLX、CPLX、NFLX)について、センシディスク(BD社)による K-B 法で実施した。なお、同試験で中間を示したものについては耐性に含めた。
- 3 IS-Printing (東洋紡): 泳動後エチジウムブロマイドで染色し紫外線撮影を行い、バンドパターンを比較した。また同時に VT 産生遺伝子である vtx1、vtx2、腸管粘膜への接着に必要なインチミンの遺伝子 eaeA、溶血素であるエンテロヘモリシンの遺伝子 hlyA の各遺伝子の有無について確認した。
- 4 **PFGE**:制限酵素に *Xba* I を用い、泳動後 **SYBR**-Green で染色し紫外線撮影を行い、バンドパターンを比較した。

成 績

42 株について、VT 産生性試験、薬剤耐性、IS-Printing 及び PFGE パターン並びに病原性関連遺伝子(vtx1、vtx2、 eaeA 及び hlyA)の結果について表に示した。

表:分離されたEHEC 0157の性状

	分離年月日	農場	VT*	<u>表:分離された</u> 耐性パターン	IS	PFGE	 病原性関連遺伝子			
No.					.。 パターン**	パターン**	vtx1	vtx2	eaeA	hlyA
1	2011. 4. 5	Α	1, 2	ABPC-SM-ST			+	+	+	+
2	2011. 4. 6	B	2		a	VI		+	+	+
3	2011. 5. 11	В	2	_	a	VI ´		+	+	+
4	2011. 6. 7	C	2	_	b			+	+	+
5	2011. 8. 2	D	1, 2	-	С	I	+	+	+	+
6	2011. 8. 2	Е	2	ABPC-SM	d	П		+	+	+
7	2011. 8. 2	Е	2	_	d	П		+	+	+
8	2011. 8. 3	F	2	ABPC-SM-TC				+	+	+
9	2011. 9. 6	Α	1, 2	SM-TC-CP			+	+	+	+
10	2011. 9. 6	D	1, 2	_			+	+	+	+
11_	2011. 9. 9	F	1, 2	_	е	VII	+	+	+	+
12	2011. 10. 4	С	2	_	b			+	+	+
13	2011. 10. 4	D	1, 2	_	С	I	+	+	+	+
14	2011. 10. 7	F	1, 2	SM	е	VII ´	+	+	+	+
15	2011. 11. 4	F	1, 2	SM	е		+	+	+	+
16	2012. 1. 16	G	2	SM				+	+	+
17	2012. 7. 6	H	2	_	f			+	+	+
18	2012. 7. 9	<u> </u>	1, 2	SM	g		+	+	+	+
19	2012. 8. 24	J	1		g		+	+	+	+
20	2012. 9. 4	C	2	-				+	+	+
21	2012. 9. 7	H	2	SM	f′	- /		+	+	+
22	2012. 9. 11	<u>D</u>	1	_	C	I '	+	+	+	+
23	2012. 9. 11	<u>D</u>	1	-	c´	I ´	+	+	+	+
24	2012. 9. 11	<u>D</u>	<u> </u>	_	c ´	l	+	+	+	+
25	2013. 6. 10	<u>K</u>	2	_	<u>h</u>			+	+	+
26	2013. 6. 11	A	1, 2	_	<u> </u>	<u> </u>	+	+	+	+
27	2013. 6. 17	<u> </u>	1, 2	-	l	Ⅲ	+	+	+	+
28	2013. 7. 3 2013. 7. 9	L	1, 2	<u>-</u>		π7	+	+	+	+
<u>29</u> 30	2013. 7. 16	M	2	-	<u>h</u> : ´	IV Ⅲ´			+	+
31	2013. 7. 16	<u>N</u> 0	1, 2 1, 2	SM	l	Ш	+ +	+	+	+
32	2013. 8. 5	J	1, 2	SM SM	:		+	+	+	+ +
33	2013. 8. 19	A	1, 2				+	+	+	
34	2013. 8. 19	<u>Р</u>	1, Z 2		ı	ш	т	+	+	
35	2013. 8. 19	<u> </u>	1, 2	ABPC-CEZ-SM-TC			+	+	+	
36	2013. 8. 20	<u>v</u>	<u>1, Z</u> 2	<u> </u>	h	IV	т	+	+	
37	2013. 8. 20	W	1, 2		k	V	+	+	+	
38	2013. 9. 9	M	1, 2		k	V	+	+	+	+
39	2013. 9. 10	D	1, 4	ABPC-CEZ-SM-KM-TC-CP	i ′	v	+	+	+	+
40	2013. 3. 10. 2	G	1, 2	7DI 0 0LZ 0III I\III 10 0I	J		+	+	+	+
41	2013. 10. 2	R	1, 2				+	+	+	+
42	2013. 10. 4	S	1, 2				+	+	+	+
	<u> </u>						- '			

*: デュオパス・ベロトキシンによる

- 1 VT 産生性試験: VT1 のみを産生したものが 5 株 (11.9%)、VT2 のみを産生した ものが 15 株 (35.7%)、VT1、VT2 両方を産生したものが 22 株 (52.4%) であった。
- 2 薬剤感受性試験: 13 株 (31.0%) が試験した薬剤のいずれかに耐性で、そのうち 6 株 (14.3%) は複数の薬剤 ($2\sim6$ 薬剤) に対して耐性を示した。

薬剤別では、13 株全てが SM に、ついで ABPC に 5 株 (11.9%)、TC に 4 株 (9.5%)、CEZ と CP にそれぞれ 2 株 (4.8%)、KM と ST にそれぞれ 1 株 (2.4%) で耐性を示した。

3 IS-Printing: IS パターンでは、複数株で同一パターンを示したものが 10 組 (a、

^{**:} ISパターン、PFGEパターンについては、同一のパターンを示したものを便宜的にそれぞれ小文字アルファベット、ローマ数字で、近似したパターンの株をダッシュ (´) を付けて記した。

b、c、d、e、g、h、i、k 及び c´) 見られ、1 バンド違いで近似したパターンの株が 4 組(c´、i´、f´、j´) であった。なお、病原性関連遺伝子は、42 株全てで vtx2、 eaeA、hlyA を保有し、27 株が vtx1 を保有していた。

4 PFGE: PFGE パターンでは複数株で同一パターンを示したものが 6 組($I \sim V$ 及 び I ´)見られ、3 バンド以内の違いで近似したパターンの株が 4 組(I ´、III ´、 VI ´ 及びVII ´)であった。

考察

今回、試験した 42 株全でが病原性関連遺伝子(vtx2、eaeA 及び hlyA)を有しており公衆衛生上留意すべきと考えられた。VT2 は VT1 よりもヒトに対する毒性が高いと考えられている[1]。

42 株はすべて *vtx2* を保有していたが、VT2 の産生が認められたのは 37 株(88.1%) であった。このことは、遺伝子型が発現していない可能性や検出キットの感度による差[2]が考えられた。

薬剤感受性試験の結果、複数の薬剤に耐性を示す多剤耐性株が 6 株見られたが、その中で最多の 6 薬剤に耐性を示した No.39 はヒトの治療に用いられることがある KM に対して耐性であった。ヒトの治療に用いられる他の薬剤については、FOM やニューキノロンに耐性の株はなかったが、今後、ヒトの治療薬の耐性の動向や多剤耐性の動向に注意する必要があると考えられた。

今後もと畜場で分離される EHEC の病原性関連遺伝子の有無や遺伝子型別、薬剤耐性等について継続調査し、家畜衛生並びに食中毒発生時の遡り調査等広く公衆衛生に貢献していきたいと考えている。

引用文献

[1]西川禎一ら:腸管出血性大腸菌の疫学. モダンメディア,58(4),103-112 (2012) [2]勢戸和子:腸管出血性大腸菌(志賀毒素産生性大腸菌). モダンメディア,56(12),337-340 (2010)